第１２章　上部ライン地域における越境地域協力

ー豊かなコア地域における地域協力ー[1]

京都大学　八木紀一郎
関西大学　若森章孝

１．越境地域協力の歴史的特質
２．越境地域協力の重層構造
３．Regio Trirhena と地域統合の進展
４．越境的地域形成のガバナンスの特質

１．越境地域協力の歴史的特質

ライン河の上流地域（上部ライン地域）はドイツ，フランス，スイスの３国が国境を接した地域であり，この地域には 1980 年代半ば以降，重層的な越境地域協力が発展している．ライン川をはさんで西部がフランス領のアルザス地方（バ・ラン県，オー・ラン県），東部がドイツ領の南部プファルツとバーデン地方（バーデンビュルテンベルク州のカールスルーエ行政区，フライブルク行政区）であるが，南部はバーゼルその他のスイス北西部（バーゼルシュタット，バーゼルラントシャフト，アールガウ，ゾーロトゥルン，ジュラ）であり，全体として約 580 万人の人口を擁している．地形的にみるならば，西のヴォージュ山脈，東のシュバルツバルトの山地，南のジュラ山脈に囲まれたライン河谷にひろがった地溝帯であり，土地も肥沃で，温暖な気候もあって葡萄栽培が盛んである．歴史的には一体性をもっていた地域であり，アルザス語もドイツ語の方言である．

しかし，１７世紀以来の国民国家の形成のなかで国境が形成され，住民は３つの異なった国の国民として近代史を歩んできた．アルザスは独仏戦争から第一次大戦までの時期はドイツ領であったが，第一次大戦後にフランスに返還された．ドイツは第二次大戦期にもアルザスのドイツ化を試みたが住民の支持を得ることはできなかった．そのよう

[1] 執筆者２人は2005年３月9-11日にこの地域を訪ねて関係機関へのヒアリングと資料収集をおこなった．そののち地理学者の伊藤貴啓氏（愛知教育大学）がこの地域の越境協力について先行して論文伊藤（2003）を公表していることを知った．それは，本章の執筆者２人が知りえた知識の大部分を含んでいただけでなく，私たちが（おそらく）行いえた以上の詳細な分析を含む調査報告であった．私たちは，上部ライン地域における越境地域協力にかんする紹介が本報告書にとって必要不可欠であると考えて，伊藤氏の論文を随所で参照しながら本章を執筆した．論文抜き刷りを恵投いただいたことと併せて感謝の意を表明する．

な領土争奪の経過もあり，第二次大戦後に独仏の協力関係が構築されてからも，この地域における両国民の間にはわだかまりが残っていた．1960 年代になるとライン河をはさむ位置にあるフライブルクとコルマールを中心として CIMAB（Communauté d'intérets Moyenne-Alsace/Breisgau）が組織されたが，活動は活発なものとは言えなかった．

それに対して，バーゼルを中心としたスイス北西部は事情が異なっていた．ライン川湾曲部の交通の要衝に位置するバーゼルは歴史的に国際的な性格をもつ開放的な都市であり，世界的な規模の化学工業の集積があり，また国際的な金融業も存在している．このバーゼル周辺地域は，スイス中心部とはジュラ山脈によって遮られ，他の地方にくらべて土地も狭小であったので，この地域の経済発展は，隣接のフランス領およびドイツ領の地域に自然と拡大することとなった．1962 年にはフランス・スイス共同運営のバーゼル・ミュルーズ国際空港がフランス領内に開港し，ミュルーズ以南の地域はバーゼル大都市圏の圏内に組み込まれはじめた．1963 年には越境地域協力組織 Regio Basiliensis がバーゼルに成立し，翌年にはミュルーズに対応した組織 Regio du Haut-Rhin が誕生している．フライブルクの Regio-Gesellschaft の成立に 20 年も先駆けている．

バーゼル都市圏を中心としたこの地域は，おそらく欧州全体のなかでも国際的な通勤者の数が最も多い地域の一つであろう．第１表でみるように，この地域を構成する４地方のうち，北西スイスが人口密度も１人あたり GDP も一番高く，また失業率も一番低くなっている．スイスから距離のあるプファルツ南部を別とすると，北西スイスとの格差はバーデン地方よりもアルザス地方の方が大きい．したがって，第２表に示されているように越境通勤の最大の供給地方はアルザスであり，最大の需要地方は北西スイスである．このことが言語的な問題も含んで，越境通勤者の対策を必要にしているのである．

表１　上部ライン４地方の比較

	アルザス	北西スイス	南プファルツ	バーデン	全体（平均）
人口(2003)千人	1,768	1,338	302	2,397	5,805
1km² あたり人口密度	214	373	200	296	270
１人あたり GDP(EURO)	24,800	32,627	21,393	28,089	
就業者数（千人）	684	687	113	1,217	2,701
失業率（%）	7.9	3.9	7.3	5.9	6.0

（OBERRHEIN Statistische　Daten 2004）

表２　４地方相互の越境通勤数

from　　to	アルザス	北西スイス	バーデン	南プファルツ
アルザス		34,500	30,000	3,500
北西スイス	100		500	－
バーデン	300	25,000		不詳
南プファルツ	100	－	不詳	

図２　上部ライン協議会の領域
http://www.oberrheinkonferenz.de/portraet/oberrheinregion/fr_oberrheinregion.htm

ドイツ領地域とフランス領地域の協力関係は，歴史的な対立を克服しようとする両国の努力やINTERREGをはじめとするEUの地域政策によって促進されたものである．それに対して，過去の対立にこだわる必要もなければ，EUの方針に従う義務もないスイス領地域にとっては，越境地域協力はバーゼル周辺地域の大都市圏形成にともなう実際的なニーズであった．

したがって，上部ライン地域における越境地域協力の現実的な原動力は，国際的な商

工業都市バーゼルの経済圏拡大にあり，それに促拍されるようにしてバーゼル都市経済の圏外における独仏地域間の越境協力が形成されたとみていいだろう．このような形成のされ方をしたため，この地域における越境地域協力には日常的・実際的な活動としばしば儀礼的な文化的親善活動の二元性がみられる．

もちろん，独仏間の地域協力関係にも実際的なニーズがあり，バーゼルなどのスイス地域も文化的・政治的な協力に関心を示している．EU の域内国境のコントロールが廃止されて以来１５年が経過し，非 EU 加盟国のスイスとも条約によって自由通行が実現している．この地域でなお残存している境界は，言語のような文化的境界と横断的交通路の不備のようなインフラ面での境界にすぎない．この地域の越境地域協力の推進者たちは，さまざまな地域協力プロジェクトによって，こうした残存した境界の克服をも意図している．彼らは，この地域は３国の国境地域であるが，ヨーロッパ全体の中でみればその中心に位置するということをしばしば指摘する．時には，この地域における３国の国境を超えた協力が「ヨーロッパのモデル」であると誇らしげに語る．たしかに，この地域では，政治的・国際的対立は解消し，経済面でも文化・教育面でも高い水準にある．整備された大学が存在し，住民の環境意識も高く，観光面の資源にも恵まれている．この地域における越境地域協力は，「地域のヨーロッパ」にとっての一つのモデルといえるかもしれない．

２．越境地域協力の重層構造

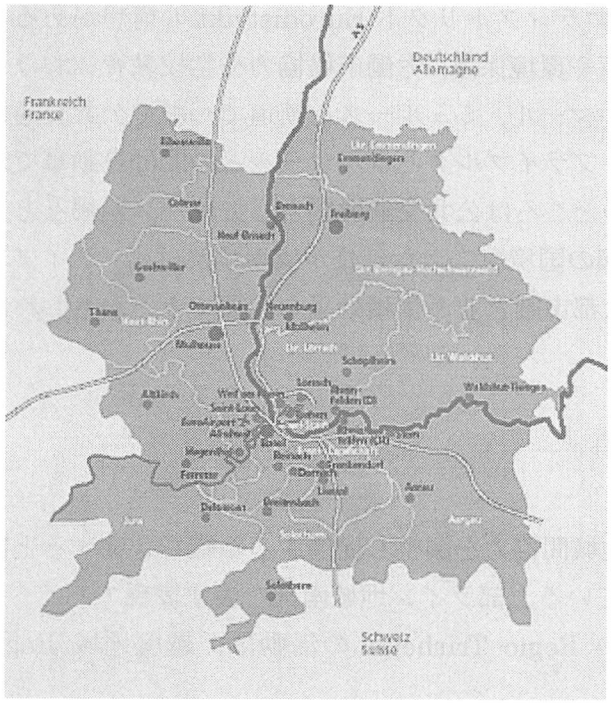
伊藤(2003)が指摘するように，この地域の越境地域協力の体制は，国ー州・県ーローカル（末端自治体）のレベルにわたる「垂直的な重層性」と，各レベルに類似の制度が３国ごとに存在するという「水平性」によって特徴づけられる．

最上部には３ヶ国の政府間委員会があり，州・県レベルには３地区の地方議会の代表者を集めた「上部ライン議会」と行政機関の代表を集めた「上部ライン協議会」があり，後者は９部門に分かれた作業グループと専門家委員会をかかえている．また，経済界と学識経験者による「３ヶ国会議」が２年ごとに特定のテーマを定めて開催されている[2]．３ヶ国政府間委員会が組織されたのは 1975 年であるが，下位の地区協議会の組織化などを経て，1991 年に「上部ライン協議会」，1998 年に同「議会」を設置している．「３ヶ国会議」が成立したのは 1988 年であるが，これはそれに先行する有識者や専門家の地域間協力への提言活動を受け継ぐものであった．

ローカル・レベルは市などの末端自治体のイニシアティヴに基づくもので，これもまた重層構造をなしている．もっとも大きいのは Regio Trirhena であり，上部ライン地

[2] 関心を示すためにこの会議のテーマをあげておこう．1988 年「交通」，1989 年「文化」，1991 年「環境」，1992 年「経済」，1995 年「若者・教育・職業」，1997 年「手工業と小営業」，1999 年「空間秩序・ヴァインシュトラーセに沿った新都市」，2002 年「上部ラインの市民」，2004 年「上部ラインにおけるメディアと通信」，2006 年 2 月「拡大欧州のなかでの上部ライン地域」．

域の南部の自治体を包括して，議会と理事会を設けて活動している．この組織は，1990年にフライブルクとミュルーズが主導した市長協議会の意を受けてこの地域に存在した越境地域協力組織である Regio Basiliensis, Regio du Haut-Rhin, Freiburger Regio-Gesellschaft[3]が主導して成立したものである．しかし，Regio Trirhena が設立されたあともそれらの組織が解散したわけではない．むしろ，Regio Trirhena を支える３組織として独自に事務所・予算・会員を擁して活動している．これらの３組織は，Regio Trirhena の内部においても，それぞれの国のグループのとりまとめに責任をもち３者対等でその運営にあたっている．



Regio Trirhena の範囲

Regio Trirhena の活動地域は，バーゼル，フライブルク，コルマール，ミュルーズの４都市を含み人口総数で 225 万人，就業者 103.8 万人である．就業者の構成は，農業／鉱業は３％，工業 22%，サービス業 45%，公務 21.5%，手工業者 8.5%であるが，GDP のうちで目立つものは化学 12%，銀行・金融 7.5%，運輸５％，軽機械・自動車５％である（以上 2001 年の統計）．失業率は 2003 年で平均 5.8%であり，ドイツ，フランスの他の地域に比べて低い．

上部ラインの各地域には INFOBEST と称される越境通勤者のための情報サービスが組織され，主要な通勤路のそばに事務所をかまえている．上部ライン地域の北部の中心都市カールスルーエやストラスブールは Regio Trirhena には入っていないが，それ

[3] これは1984年に創設された組織であるが，2004年の３月に RegioGesellschaft Schwarzwald-Oberrhein と改称した．

ぞれ INFOBEST PAMINA と INFOBEST Kehl-Strassbourg が設けられている．フライブルクへの通勤者には INFOBEST Vogelgrun-Breisach，バーゼル大都市圏の通勤者には INFOBEST PALMRAIN がサービスを提供している．

ローカル・レベルでの組織としては，既に述べたフライブルクとコルマールを中心にした古手の協力組織 CIMAB，バーゼル大都市圏の空間整備にあたる TAB(Trinationale Agglomeration Basel)が活動している．

なおフライブルク市庁でのヒアリングでは，制度化された行政協力を，コルマールを中心とした中部アルザス，ミュルーズを中心とした南部アルザスとフライブルク地域（Region Freiburg）とで構築するユーロディストリクト Eurodistrikt の構想があることを伝えられた．この構想では救急医療や環境保護，労働市場協力や学校教育における協力がうたわれているだけでなく，コルマール，ミュルーズを軌道でつなぐ公共交通機関網の建設が主要な課題とされている．フライブルクとコルマールとの間は自動車で走れば１時間程度の距離であるが，現在のところは公共交通機関としてはバスが細々と走っているにすぎない．このような交通網の国境をこえた延長が実現すれば，フライブルクとコルマールを結ぶ軸も，バーゼル大都市圏と並ぶ集積効果を発揮できるかもしれない．

３．Regio Trirhena と地域統合の進展

Regio Trirhena は，３国間の越境地域間協力を調整し促進する組織を意味すると同時に，この協力組織の対象地域となっている上部ライン地域南部を表す表現である．それゆえ，越境地域間協力組織としての Regio Trirhena の活動は，越境地域 Regio Trirhena の統合プロセスでもある．

組織構造において説明したように，Regio Trirhena はドイツ，フランス，スイスの３国を基礎にした３つの越境地域協力組織のイニシアティブによって形成された組織であり，理事会（12 名＋オブザーバー３名）と議会（60 名）を備え地域全体におよぶ大規模なプロジェクトを担当している．

広報冊子で紹介されている活動には，「地域に根ざし世界に開かれた」ハイテク産業の立地促進，見本市開催への協力，職業訓練・研究開発，バイオ・バレー，観光，国際運輸のハブ，いまやドイツも運営に加わったバーゼルーミュルーズーフライブルク国際空港ユーロエアポート，地域計画，環境保護，スポーツ・レジャー，文化芸術，テレミュニケーション，メディアがあげられている．最近では，上部ライン地域の文化協会を束ねて地域文化史を再評価するプロジェクトを企画している．

Regio Trirehna はホームページは有しているが，紙媒体で配布できるような広報誌はもっていない．広報誌[4]を配布したり，個人や個別企業を会員としておこなったりす

---

[4] Regio Basiliensis は *Regioinform*，RegioGesellschaft Schwarzwald-Oberrhein は

るローカルな活動は下部の３組織が担当している．バーゼル，フライブルク，ミュルーズというそれぞれの都市が中心である限りでは活動が越境的でも，下部の組織だけでも行ない得る．３国で協調し，対等原則にもとづいて全体に及ぶ活動をするときには，横断組織である Regio Trirehna が利用されるのであろう．

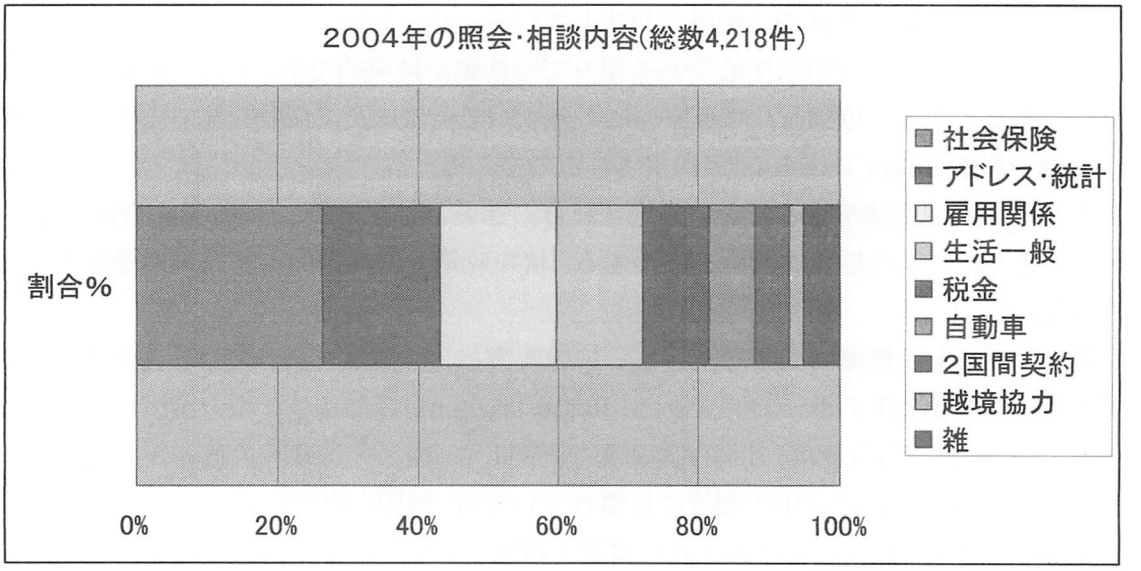
ところで，国境隣接地域における地域統合の進展という視点から Regio Trirhena を考えるとき，ヒトの越境的活動を支援する，情報政策と越境労働市場政策の進展が注目される．

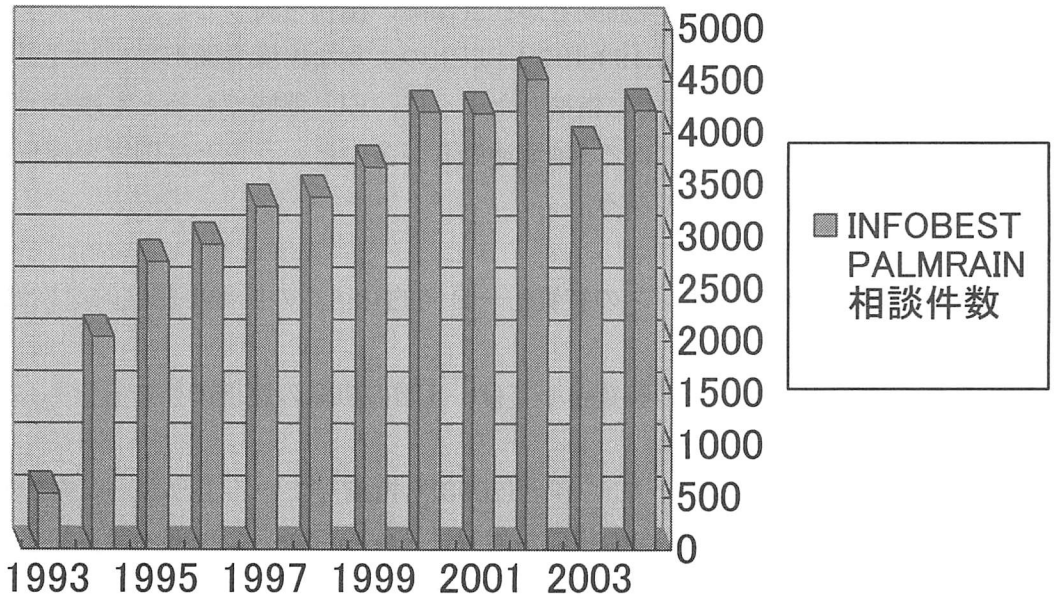
第一に，ヒトの越境的活動を支援する情報政策として注目されるのは，この地域に展開する INFOBEST のサービスである．Regio Trirhena のような３つの国境にまたがる地域では，税制や教育制度，社会保障制度など関して，国ごとに多くの違いが存在する．それぞれの国の市民は自国の制度には慣れていても，隣国の制度にはまったく不慣れである．それゆえ，公式および非公式の情報を越境しようとする市民に伝える情報政策が地域統合の進展にとってきわめて重要である．INFOBEST はそのような目標をかかげて，InterregI による３カ国共同事業のひとつとして設置された制度である．INFOBEST というのは INFOBEST の呼称は，「国境を越えた問題について情報を提供し相談に応じる事務所」（INFOrmations- und BEratungsSTelle für grenzüberschreitende Fragen）を縮めて作られたもので，その事務所は国境を越えて通勤あるいは求職活動をしている人や，求人活動をおこなう企業が訪れやすいように主要な都市への通勤路に設けられている．

私たちはバーゼル都市圏を担当する INFOBEST PALMRAIN の事務所を 2005 年３月９日に訪ねたが，近郊の独仏国境であるライン河またぐ橋のフランス側に，かつての税関の建物を改装して事務所にしていた．応対をしてくれたクリストフ・ブルム氏によれば，運営の原則は，４（人）－３（国）－２（言語）－１（チーム）である．彼自身は Regio Basiliensis から派遣されているが，他にフランス，ドイツの Regio 組織から派遣されている２人の職員にアシスタントの１人を加えた４人が１チームになって業務にあたっている．運営資金はドイツ，フランス，スイスでそれぞれ 1/3 ずつを負担しているが，ドイツは５団体，フランスは 10 団体，スイスは 17 団体がパートナー（Träger）とよばれる出資者になっている．1993 年に開設されて以来の年間の対応件数をグラフに示しているが，毎年約 4000 件の照会や相談を受け付けている．照会・相談の内容は，社会保険，雇用関係に関することから税金，自動車，その他日常生活に関することにまで及んでいる[5]．

Regio-Info という広報誌を配布している．

[5] たとえば労働時間については，フランスでは週３５時間という規制があるが，スイスでは週 43 時間まで許されている．


2004年の照会・相談内容(総数4,218件)
割合%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
社会保険
アドレス・統計
雇用関係
生活一般
税金
自動車
2国間契約
越境協力
雑



INFOBEST PALMRAIN, *Jahresbericht 2004*, S.5

INFOBEST のサービスの発足時は INTERREG の I と II の援助を受けたが，III からは得ていないので，現在は近隣の自治体を主としたパートナーが経費を負担して活動している．照会・相談件数も年間約 4000 件程度で安定していて，定着したサービス活動とみなせるだろう．INFOBEST は 3 国国境地域における日常的な生活空間の統合に貢献しているのである。

第二に，ヒトの越境的活動を支援する越境労働市場政策として注目されるのは，越境的労働力移動の障害となっている税制の違いに対処しようとする二国間協定の制度化である．Regio Trirhena における越境税協定によれば，税金は収入を獲得する国で徴収されるべきであるという一般的ルールとは違って，越境通勤者は労働する場所ではなく居住する場所で税を支払うことになっている．フランス・ドイツ間の越境通勤者は彼らの居住地で税金をしはらう．スイスとドイツのあいあだの越境税協定はすこし異なっていて，スイスで働きドイツに住むドイツ人はスイスで 4.5%の源泉徴収税を支払わねばならないが，ドイツでの税負担ではスイスで支払った 4.5%の源泉徴収税が控除されているので，税負担額は結局同じということになる．ドイツで働くスイス人もドイツで.5%の源泉徴収税を支払わねばならない．フランスとスイスのあいだの越境通勤者は源泉徴収税を支払う必要はない．また，EU 加盟国とスイスとのあいだに存在する社会保障制度の違いを調整する努力も進んできていて，「雇用場所の原則」にしたがって，被雇用者は労働する場所で保障されることになっている．たとえば，ドイツで働くスイス人はドイツで社会保障負担金を納入しなければならない．同時にスイスと EU 加盟国

で働くひとは，どちらか一方の国で保障される．その他，社会保障制度上の違いを調整する手続きは複雑であるが，越境通勤者が社会保障の権利を失うことがないような工夫がなされている(OECD 2003 p.193-197)．以上のような越境労働市場の制度があるからこそ，Regio Trirhena はすでに指摘したように，EU 地域でもっとも越境通勤者が多い国境地域となっているのである．越境通勤者が多いということは国境を越える労働市場の統合が進んでいることである．

4．越境的地域形成のガバナンスの特質——自発的レベルの協働と制度的な協働——

越境地域協力のガバナンスの特質としては，3国の組織の連携の仕方とともに，3国ごとの差違が見られる．

3国組織の連携の仕方においては，伊藤(2003)も指摘しているような「垂直的重層性」と「水平性」が特徴である．3国の組織が対等性を保ちながら，上部の越境協力組織である Regio Trirhena や Oberreinkonferenz を運営している．これらの組織においては，行政にあたる理事会と審議にあたる議会の二重構成が成立していて，幅広く意見を取り入れて行政の独走を避けるシステムになっている．

しかし，外見上は各国組織が均斉的な構造になっているように見えるが，運営上はそれぞれ特徴があるように思える．

スイス側の協力体制において目につくのは，越境協力組織 Regio Basiliensis の特質と多機能性である．伊藤(2003)は，この組織の会員の分布と有力な企業会員について分析をおこなっているが，経済的な利害関係をベースにおきながら民間の創意をくみ上げていることがわかる．スイスは自治体であるカントンごとの分立性が高く，バーゼル自体も歴史的経緯から都市部のバーゼルと旧農村部のバーゼルが分立している．バーゼル市長といえども独裁的なリーダーシップを発揮できるわけではないのである．Regio Basiliensis は Regio Trirhena のなかにあって，スイス側の意思を統合する責任を負っていると自認している．権力組織ではない協会的組織がそのような調整をおこない，垂直的重層構造をもつ協力体制を支えているのである．分立的な自治体を統合して，バーゼル大都市圏のニーズを実現していくためには，その方が適切なのであろう．

ドイツ側では行政の背極性が目につく．フライブルクを中心にした Regio-Gesellschaft は会員構成をみると企業と団体が主であり，個人は少ない．この組織は，結成がバーゼルのそれから 20 年遅れ，また最近改組をしたように，越境地域協力の必要性から外部から束ねるようにして作られた組織という性格が強い．越境地域協力の原動力は，一方では州政府，他方では中心都市であるフライブルク市から生まれているように思われる．私たちは，バーデン＝ヴュルテンベルク州のフライブルク行政区(Regierungsbezirk)の区長（Regierungspräsidium）であるフォン・ドローステ氏に面会したが，氏の役割は南部バーデンの自治体の利害を調整しながら越境協力を実現する

ことであり，またその役割に対して抱負を抱いているようであった．ビジョンとしては環境保護と高度産業集積の両立ということになるのではないかと思う．他方で，ユーロディストリクトを主導するフライブルク市の幹部にも面会した．この幹部は，フライブルク市が様々な形で他の自治体の負担を肩代わりしながら地域協力をしていると述べ，責任のある行政協力の体制の成立への希望を表明した．

フランス側で Regio Trirhena における越境協力の中心的な担い手となっているのは，アルザス地域圏議会の下部組織であるアルザス開発公社（Agence de developpement de l'Alsace(ADA)）であって，スイス側の Regio Basiliensis と連携関係ある越境協力組織，Regio du Haut-Rhine ではない．ADA は何よりもアルザス地域における投資，研究開発，技術革新，企業競争力などの促進とそのための情報提供の機関であって，外国資本の投資を呼び込むために日本も含めて世界各国に９の代表部をおいている．それゆえ，上部ライン地域における越境協力は ADA にとって重要ではあるが，いくつかの重点目標のひとつである．ADA は経済的アクターとして越境地域協力に参加し，上部ライン協議会の９部門の作業グループのひとつである「経済政策」部門の責任者（アルザス開発公社総裁，アンドレ・クラインがこの部門の委員長である）を担当するほか，上部ライン地域南部の越境協力機構である Regio Trirhena の議会と理事会に代表をおくっている．また，アルザスの持続的な経済発展のためには先端技術の開発が必要であるという立場から，ADA はバイオテクノロジー（Bio Valley）や情報通信技術（e-Alsace），環境技術（EcoRhena）などプロジェクトに関する越境協力を積極的に支援している．しかし，ADA が，Regio Trirhena の事務局業務を Regio Basiliensis や Regio-Gesellschaft とともに担当しているとはいえ，Regio Trirhena に参加するフランス側の組織，オー・ラン県，コルマール市，ミュルーズ市，市町村連合，アルザス南部商工会議所，オー・ラン観光協会，オート・アルザス大学，Regio du Haut-Rhine の意見や利害を調整し，フランス側の意思を統合するコーディネーターの役割を担っているわけではない．ミュルーズに本部をおくアルザス南部商工会議所やオー・ラン県，ミュルーズ市によって支援される Regio du Haut-Rhine の役割は限定的である．フランス側には，スイス側における Regio Basiliensis のような，コーディネーターの役割を果たしうる越境協力組織は育っていない．アルザス南部では，スイス北西地域のバーゼル国境地域とは違って，国土開発の単位として創設された地域圏のひとつであるアルザス地域圏と行政単位である県（オー・ラン県）の影響力が強いのにたいし，商工会議所や越境協力組織の力はまだ弱いのである．

聞き取り調査したドイツ側とスイス側の関係者は，フランスは集権的な制度をとっているのでやりにくいとこぼしていた．スイスは分立的であるが，合意さえ形成されれば実行に移すのは簡単である．連邦制をとるドイツでは，関与する政府は地方的利害に関心のある州政府であり，また自治体の決定権も広範である．フランスの場合には，地方をまとめた行政単位の自立性が弱いので，パリの中央政府を含めた合意がまず前提にな

るようである．しかし，Regio du Haut-Rhine のような越境協力組織がコーディネーター機能を強化していくなら，地方の自主性・創意性が発揮される可能性があるかもしれない．

このように各国ごとにとくに地方自治の態様に差異があるというものの，この地域では企業だけでなく，商工会議所や経済団体，文化団体，労働組織といった自発的協会組織の存在や活動については大きな類似性が見られる．Regio の呼称を冠した越境地域協力組織もその延長上にある．これらの各種協会は，それぞれ水平的に協働することができるし，またそのようにして合同して活動している[6]．表３に見られるように、こうした自発的レベルの協働と（行政を含む）制度的な協働の重層構造としてのクロスボーダー・ガバナンスによって，越境的な地域形成が発展していくのであろう．

表３　上部ライン地域における越境協力組織一覧表　（＊自発的協働組織）

1 Académie de la Coopération Transfrontalière - ACTE ＊

2 Association de Prospective Rhénane ＊

3 Association des Frontaliers d'Alsace-Lorraine ＊

4 Association Route Verte - Grüne Strasse ＊

5 Association Touristique Pays de Blade-Alsace-Palatinat ＊

6 Collège franco-allemand pour l'Enseignement Supérieur - Voir Université Franco-Allemande ＊

7 Communauté des Communes des Trois Frontières

8 Confédération Européenne des Universités du Rhin Supérieur - EUCOR

9 Conférence Frano-Germano-Suisse du Rhin Supérieur - Secrétariat Commun de la Conférence du

10Rhin Supérieur

11Conseil de la Régio Tri Rhena - REGIORAT

12Conseil Général du Bas-Rhin -Direction des Affaires Transfrontalières, Européennes et Internationales

13Conseil Général du Haut-Rhin - Service de l'Action Transfrontalière

14Conseil Régional - Direction de la Coopération et des Relations Internationales

15EURES-T - EURopean Employment Services Transfrontalier Oberrhein/Rhein Supérieur

16Euro-Info Consommateurs - Euro-Info Verbraucher e.V.

17Euro Institut - Institut pour la Coopération Transfrontalière

18Freiburger Regio-Gesellschaft ＊

19Groupement Local de Coopération Transfrontalière REGIO PAMINA

---

6 典型的なのは商工会議所である．フライブルク地域で活動している南部上部ライン商工会議所 Industrie- und Handelskammer Südlicher Oberrhein は，コルマールに本部のある中部アルザスの商工会議所と密接な関係にある．商工会議所間の提携は，雇用や職種基準における相互通用性を促進する．また，バイオ・バレーのような越境産業集積にも貢献する．

20Groupement Local de coopération Transfrontalière « Vis-à-vis »
21Infobest Kehl-Strasbourg
22Infobest Palmrain
23Infobest Pamina
24Infobest Vogelgrün-Breisach
25Institut Franco-Allemand de Recherche sur l'Environnement - IFARE
26Institut Franco-Allemand pour les Applications de la Recherche - IAR
27Institut Transfrontalier d'Application et de Développement Agronomique - ITADA
28Local Transfrontalier d'Information et d'Animation Culturelle Zig-Zack
29Programme MEDIA - Antenne MEDIA Strasbourg
30Regio Basiliensis ＊
31Regio du Haut-Rhin ＊
32Regional Verband Mittlerer Oberrhein
33Réseau Transfrontalier d'Information pour l'Artisanat - Grenzüberschreitendes Beratungsnetz für Handwerk ＊
34Secrétariat du Programme INTERREG Rhin Supérieur Centre-Sud - Conseil Régional d'Alsace -
35Direction de la Coopération et des Relations Internationales
36Union Européenne des Travailleurs Frontaliers ＊
37Union Ouest-Européenne des Chambres de Commerce et d'Industrie des Régions Rhénane, Rhodanienne et Danubienne ＊
38Université Franco-Allemande ＊

【参照文献】

飯嶋曜子(2003)「EU の地域政策と地方行政の変化」『駿台史学』第 118 号.
伊藤貴啓(2003)「バーゼル国境地域における越境地域連携の展開とその構造」『地理学報告』(愛知教育大学) 第 97 号.
黒澤隆文(2002)『近代スイス経済の形成ー地域主権と高ライン地域の産業革命』京都大学学術出版会.

OECD (2003)OECD Territorial Reviews : Oresund.
EuroRegion Oberrhein (2004) *OBERRHEIN Statistische Daten 2004*..
Füeg, Rainer (2004) *Wirtschaftsstudie Nordwestschweiz 2003-2004. Schriften der Regio* 7.26, Helbing & Lichtengahn.
Industrie- und Handelskammer Südlicher Oberrhein (2004) *Jahresbericht 2003.*

INFOBEST PALMRAIN (2005) *Jahresbericht 2004.*

Meyer, Gilbert (Colmar), Salomon, Dieter (Freiburg), et al., (2004) *Auf dem Weg zum Eurodistrikt - Region Freiburg/ Centre et Sud Alsace.*

RegioGesellschaft Schwarzwald-Oberrhein (2004) *Mitgliederporträt.* .

Regio Basiliensis(2004) *Regioinform* (Jahresbericht 2003) no.1 2004.

Regio Report: Das Magazin der Wirtschaftregion Freiburg (2003,) Promo-Verlag, Freiburg.

RegioTriRhena (2005) *RegioTriRhena: The European Cross-Border Synergy - France, Germany, Switzerland: Model of Devlopment.*.

(Regio Basiliensis) http://www.regbas.ch/d_meilensteine.cfm (2005/02/07)

(Freiburger Regio-Gesellschaft) http://www.regio-gesellschaft.de (2005/01/29)

(Regio Trirhena) http://www.regiotrirhena.org/ (2006/2/13)